



心のこもったつうしんぼ

中幡小学校 三年一組 江下 友香

さいしよ、「先生のつうしんぼ」という題名を見たとき、生とが先生からもらうつうしんぼのお話をそうぞうしました。でも、生とが先生につけるつうしんぼという反対の発そののお話で、とてもおもしろかったです。

お話に出てくる三年一組たんにんの古谷先生は、にんじんがきらいです。学びゆう会で「きゆう食はのこさず食べましよう。」と決まったのに、先生は口をふくふりをして、「にんじんを紙につつんですてていました。そのことにごろうだけが気づき、こっそり先生のつうしんぼをつけることを思いつきます。

わたしは、このお話を読んで、生とががんばっているのに先生だけがずるをしていて、だめな先生でびっくりしました。でも、読んでいくうちに、ごろうのようにこの先生がだんだんすきになり、おうえんしてあげたい気持ちになりました。どうしてかというと、古谷先生が、しっぱいしながらも一生けんめいがんばっているところが見えたからです。

先生は、にんじんぎらいをかくしていたことを生とたちにあやまり、食べられるようにいっしよにど力することをやく

そくしました。そのすがたは、好ききらいがある子どもたちにゆう気をあたえたと思います。

そんな先生を見て、先生のつうしんぼをどうつけたらいいか、ごろうがなやむところが心にのこりました。ごろうは、まよって「もうすこし」をつけたけれど、わたしなら「たいへんよい」をつけてあげたいです。

古谷先生は、始めはいつもたよりないけれど、さい後は何にでも一生けんめいです。夏まつりや、かいこをそだてる場面など、学校生活の中で、子どもたちといっしょにせい長していくところがよかったです。読んでいて心が温かくなりました。もし、わたしが先生のつうしんぼをつけるとしたら、全部の教科が「たいへんよい」になってしまおうと思います。

つうしんぼの丸をつけるところは、「たいへんよい」、「ふう」、「もうすこし」の三つしかありません。

つうしんぼは、「もうすこし」があるのがっかりしてしまうけれど、「もうすこし」でも、ごろうがつけたように、がんばれという気持ちがかもっているんだとかんじました。

わたしも、これからつうしんぼをもらうときは、もしぎんねんなけっかがあったとしても、できなかつたことをこうかいるのはやめようと思います。「次ががんばれ」という先生からのおうえんメッセージなんだなと思ってど力するようにしたいです。